



クオリティインディケーター（QI）成果報告

【脳神経内科】

指標名

入院時塞栓原不明脳塞栓症に対する経食道心エコーの施行率

目標：ゴール

脳梗塞で入院した患者のうち、入院時に塞栓源不明であった脳塞栓症患者に対して、入院中のリスク精査として経食道心エコーを70%以上施行すること。

目標：ゴール達成による効果

塞栓原不明脳塞栓症の患者において、より正確に原因疾患・塞栓源をつきとめることにより、最適の再発予防薬を選択でき、より高い再発予防効果をもたらす。

目標：ゴールに対する成果の状況

目標：70%以上

2022年度 51.6%（入院時塞栓原不明脳塞栓症：31例、経食道心エコー施行例：16例）

2023年度 63.3%（入院時塞栓原不明脳塞栓症：49例、経食道心エコー施行例：31例）

目標：ゴール達成度

- S : 大幅な目標を上回った
- A⁺ : 目標を多少上回って達成
- A : 目標を達成
- B⁺ : 目標を少し下回った
- B : 目標を下回った
- C : 目標を大幅に下回った
- : 外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

2022年度は51.6%、2023年度は63.3%と、経食道心エコーの施行率は増加はしたがまだ目標値に達しなかった。理由として、2022年以前にはCOVID-19感染予防の観点から、エアロゾル感染の危険がある経食道心エコーの施行が縮小傾向にあったことがあげられる。現在は、患者の感染確認、防護を含む適切な感染予防策をとりながら、施行対象を適切に選択して検査を施行することで塞栓原不明脳塞栓症への施行率は増加傾向となっており、今後も目標達成に向けて上記方針を継続する。